

【プログラム (講師)】

- 1) フォーラムの趣旨とテラヘルツ技術の位置づけ
(笠井尚哉氏/横浜国立大学大学院環境情報研究院 准教授)
- 2) テラヘルツ波とは -その発生・検知・分析について-
(水津光司氏/千葉工業大学 電気電子情報工学科 教授)
- 3) テラヘルツ波を利用した非接触検査技術の開発と応用の可能性
(碓 智文氏/スペクトルデザイン 技術部長)
- 4) STEMでの検討と建築・住宅分野での今後の可能性について
(武田敏郎氏/STEM幹事、
元 積水化学工業(株) 執行役員 住宅技術研究所長)

※講師は、STEMテラヘルツ波の戸建住宅診断適用の
予備検討ワーキンググループメンバー

【結果】

参加者40名。参加者から対象物からの距離、測定範囲、電波法などの質問があった。また、建築、住宅分野におけるテラヘルツ波技術のニーズ・用途を尋ねるアンケートには、住宅の壁内の非破壊診断(水分)、漏水時水みちの発見、タイル張りの定期点検、屋上防水の直下劣化状態確認、耐震補強前の木部健全性確認、木造住宅の接合金物の検査など多くの回答が寄せられた。



5月15日(火)定員を満たす40名の参加者で、平成30年度テクノフォーラムとして建築研究コンソーシアムと連携協力協定を締結している(株)日本建築住宅センターのSTEM(科学技術エキスパート会議)から表題のテーマでフォーラムが開催されました。初めに横浜国立大学大学院環境情報研究院の笠井尚哉准教授がフォーラムの主旨とテラヘルツ波の位置づけを明確にされ、千葉工業大学電気電子情報工学科の水津光司教授が「テラヘルツ波とは」という題名で、基本的かつ専門的な情報と実例を交えて講演されました。続けてスペクトルデザインの碓智文技術部長からテラヘルツ波を利用した非破壊検査技術の開発と応用の可能性について講演され、最後にSTEMの武田敏郎幹事からSTEMでの検討の経緯と建築住宅分野での今後の可能性について分かり易い説明がありました。講演後も質疑応答が活発に行われ、テラヘルツ波利用の非破壊検査への期待の大きさが伺われるテクノフォーラムとなりました。

2018/05/16

コンソーシアム事務局